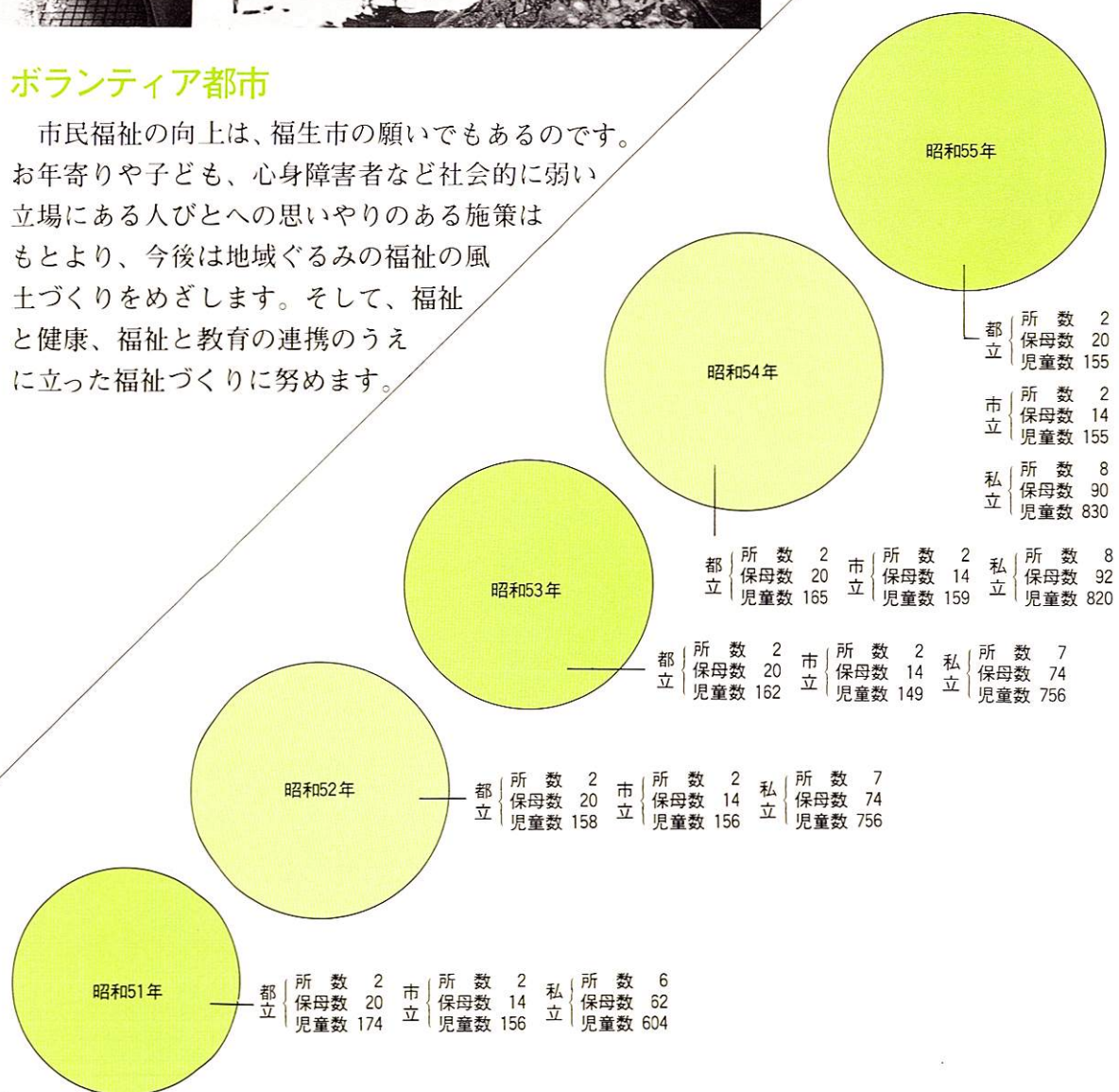




## ボランティア都市

市民福祉の向上は、福生市の願いでもあるのです。お年寄りや子ども、心身障害者など社会的に弱い立場にある人びとへの思いやりのある施策はもとより、今後は地域ぐるみの福祉の風土づくりをめざします。そして、福祉と健康、福祉と教育の連携のうえに立った福祉づくりに努めます。

### ● 保育所数・保母職員数 幼児数の推移



学童保育

### ● 乳児保育・

#### 学童保育の要望にこたえて

急激に都市化が進んだために、核家族化、共働き家庭、母子家庭が増加し、児童福祉に対する市民の期待はますますふくらんできました。

現在、市の保育園は都立2、市立2、私立8で、55年4月現在1,140人の措置児童に対して124人の保母があたるほか、乳児保育を実施するなど、保育環境の充実整備をはかっています。また、市内10カ所に児童遊園を整備しています。

共働きで学校から帰ってきても、家にだれもいない小学校1～3年までの児童に対して、学童保育所を設置。現在、市内に7カ所、定員は各40人です。



ホームヘルパー

### ●高齢者事業団がスタート

日本人の平均寿命は男子73歳、女子78歳で、国際的にみても世界のトップクラスといえるでしょう。このように、長寿国になったことは喜ばしいことですが、その反面、高齢化社会になるにつれて、お年寄りの社会参加が大きな社会問題になってきました。市でも65歳以上のお年寄りが年々増え続け、生きがい対策を含むお年寄りの福祉対策はいよいよ重要です。

そこで、これまで同様、福祉会館を拠点とした福祉活動を展開する一方、ホームヘルパーによる一人ぐらしの老人、寝たきり老人の介護、福祉バス(1台)、車イスバス(1台)の設置など血のかよった施策を行っています。とくに、54年からスタートした高齢者事業団(会員197人)は、生きがい対策として、今、脚光を浴びています。

なお、市の老人クラブ(21団体、1,687人)でも、お年寄りによる自主的な生きがい活動がおし進められています。

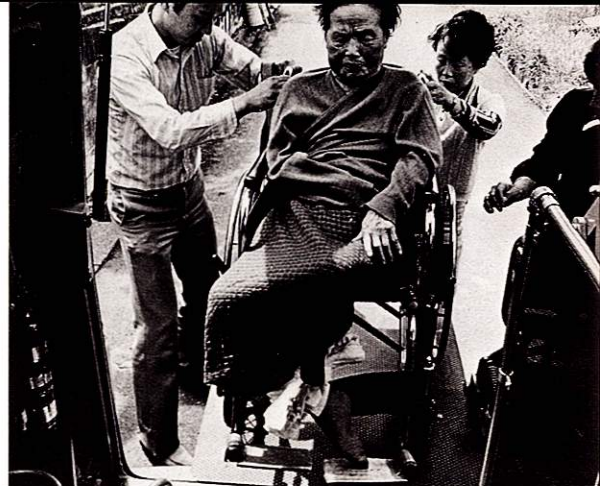


高齢者事業団

### ●福祉の風土づくり

戦後35年、ようやく日本も福祉国家に仲間入りしたといわれます。しかし、行政側の努力だけでなにもかもやれるわけではありません。市民の善意の輪づくりがあってこそ、福祉は血のかよったものになるのです。

そんな善意の輪が、市内でも芽生えてきました。そのひとつが手話サークル“福手の会”であり、朗読奉仕“いとでんわ”です。これからも、これらに続く市民自身によるボランティア活動がのぞまれます。



車イスバス

体温のある都市へ